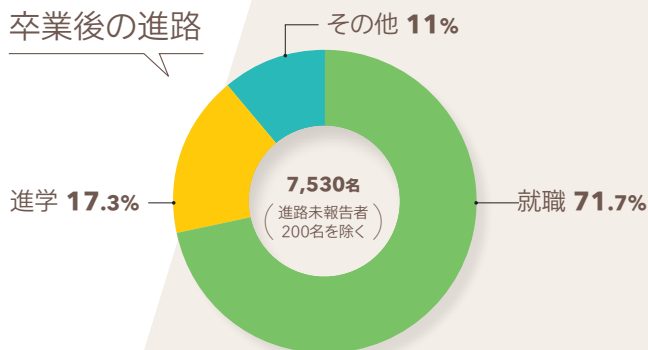


DATA

慶應義塾大学 2023年度の進路に関するデータ

卒業後の進路



就職先業種別内訳

	人数	%
農林・漁・鉱業	3名	0.1%
建設業	71名	1.3%
製造業	712名	13.2%
電気・ガス・熱供給・水道業	57名	1.1%
情報通信業	916名	17.0%
運輸業・郵便業	161名	3.0%
卸売・小売業	434名	8.1%
金融・保険業	935名	17.3%
不動産業、物品賃貸業	137名	2.5%
学術研究、専門・技術サービス業	1,171名	21.7%
サービス業	348名	6.4%
教育、学習支援業	80名	1.5%
医療、福祉業	153名	2.8%
国家公務員（教育公務員除く）	67名	1.2%
地方公務員（教育公務員除く）	50名	0.9%
分類不能の産業	104名	1.9%
就職者数	5,399名	100%

主な資格試験の合格者数

国家公務員試験

(総合職 ※教養区分を除く)

院卒者試験 **14名**

大卒程度試験 **37名**

合計 **51名**

司法試験

186名

(出身大学別合格者数 全国順位 第2位※1)

公認会計士試験

165名

(出身大学別合格者数 全国順位 第1位※2)

※1 法務省発表に基づく ※2 公認会計士三田会資料に基づく

新学期、
未来を切り開く！
何を学ぶ？
どう過ごす？

新学期。塾生の皆さんにとって、新たなことへチャレンジしてみたいという気持ちも高まる時期ではないでしょうか。この機会に、自分自身の未来について、あらためて考えてみてはいかがでしょうか。

就職活動の早期化をはじめ、進路をめぐる社会の環境は変わり続けています。学業に励む、就職活動に本腰を入れる、進学や資格取得を目指す、課外活動に打ち込む—学生生活の過ごし方はさまざまですが、自分にとって何が大切なのか、どのようにバランスを取るかを考えることは、将来の可能性を広げる上でとても重要です。

この特集を通して、皆さんが自分自身と向きあうためのヒントを得られることを願っています。

今も変わらぬ就職活動の心得

読売新聞「就活ON!」編集長

恒川良輔つねがわりょうすけ君

1999年文学部西洋史学専攻卒業

「研究と準備なくして実社会に入ろうとすることは甚だ無謀である」「無準備の青年に限って、有名な銀行、一流の会社、評判の大商店など名前食いが多い」

1929（昭和4）年12月発行の書籍『就職戦術』（先進社）の一節だ。100年近く前の学生たちが手にしていた就職活動のマニュアル本で、心得のほか、商社や銀行、新聞社などの筆記試験問題や初任給なども載っている。記事からは、自己分析や企業・業界研究もせずに、有名企業に次から次に応募する学生がいたことがうかがえる。

当時は第一次大戦後の長引く不況で、この年の9月には映画「大学は出たけれど」（小津安二郎監督）が公開されるほど就職難だった。記事によると、発行年の学生の就職率は50・02%。映画は、大学卒業後も定職に就けず、田舎の母親に「就職できた」とウソをついてしまう青年の物語だ。記事では

「父兄や自己の周囲が希望しているからといって（中略）、見栄第一の就職口を選んで、自己の天分とまるで反対の方向を辿る」例を「甚だ遺憾」とし、「虚栄心をかなぐり捨てて自己の将来を最も伸ばしやすい天職としての職業を、自らの力で選択すべきである」と論じている。耳が痛い塾生はいないだろうか。

学生優位の「売り手市場」が続く2024年3月卒の就職率は、少子高齢化による慢性的な労働力不足の影響で、98・1%と過去最高を記録した。特徴的なのは、退職者を中途採用で埋められなくなった中小企業が、新卒採用市場に多数参入してきたことだ。

そのため、就職先を選ばなければ内定は得られるが、有名企業や人気業界は応募が集中し、「選考倍率が1000倍を越すことも珍しくない」（採用アナリスト）状況だ。有名企業にだけ応募し、全滅するリスクは、就職難だった昔より高いのではないだろうか。

企業が選考を受けてほしい学生を指名する「逆求人」や、個別に企業を紹介してくれる「就職エージェント」など就活支援サービスは多様になった。それでも、就活の基本的な心得は、昭和から変わっていない。「働く上で譲れない条件は何か」「自分はどのような人生を送りたいのか」。自分の就活の軸を言語化し、それに合う仕事や企業を見つけ、さらにOB・OG訪問をして、確認を繰り返すことだ。

名前が知られていないスタートアップなどに就職先を決めたときに、「そんな企業知らない」「もっと大きな企業を受けたら」と親や親戚に言われるかもしれない。熟慮の末の決断なら、きつと胸を張って説明し、親たちを納得させられるはずだ。

『就職戦術』でも慶應義塾は私学の雄として名前が出てくる。慶應義塾の名前にぶら下がるのではなく、自らが慶應義塾の名前を高める心意気で就活に挑んでほしい。

この春、新たな道を歩む塾生による座談会



4月から民間企業、公務員、大学院生として新たなスタートを切る3人に、それぞれの進路選択や就職活動について聞きました。

(所属学部学科・学年は、2025年2月取材時のもの)

私たちが学生生活を通して考えた卒業後の未来。

——皆さんは大学に入学して、学生生活を送る中で卒業後の進路をどのようにイメージされていましたか。

山田 入学時ははっきりした卒業後の進路についてイメージはありませんでした。それどころか大学入試にあたって文系か理系かも迷っていたくらいです。最終的に理工学部を決めたのは受験科目が文系より理系の方が得意だからでした。卒業後の進路は大学院進学が多いですがその道は考えておらず、「自分は何がやりたいのか」と進路に

ついて悩むことになりました。

生出 私は大学入学時から将来やりたいことは決まっていました。中学、高校と部活動でミュージカルに取り組んで、それがとても楽しくて「舞台の仕事」を目指していたのです。日本は欧米に比べるとミュージカルはややマイナーなジャンルだという課題感があり、その魅力をもっと多くの人に知ってもらいたいと思うようになりました。音楽大学への進学も考えたのですが、最終的には舞台に関わるにしても、

将来の選択肢がより多様になると考えてSFCの環境情報学部に入學しました。中高一貫校でずっと同じ友人たちと過ごしたこともあり、新しい出会いと自分自身の視野を広げることを求めています。在学中は「SFC七夕祭」の実行委員会の仕事を通してイベント企画・制作に携わる一方、研究室では「観光マーケティング」について研究し、演劇やミュージカル以外の分野についても知見を得ることができました。

池田 高校時代は数学が苦手だったので文系学部に進学することは決めていました。もともと「人」に興味があったので当初は文学部を考えていたのですが、母と将来の話をしていた「公務員に向いていると思うよ」と背中を押されたこともあり、考えた末に法学部



理工学部物理情報工学科4年
やまだ かいと
山田晃汰君

デロイト トーマツ ファイナンシャルアドバイザー 合同会社内定。理工学部では医療用レーザーの研究に取り組む。3年次にはマーケティング支援企業でインターンシップを経験。

新学期、未来を切り開く! 何を学ぶ? どう過ごす?



法学部法律学科4年

池田楓花君

法律学科では知的財産法のゼミに所属し、そのテーマで卒業論文を執筆。就職活動は、公務員と民間企業を並行した結果、東京都の一般行政職員を選択。

に入学しました。法学や経済学なども「人」が生きていくための制度や仕組みですから、きつと興味を持って学べると思いますし、文学は社会人になった後で学び直すこともできると考えたからです。ただし最初から公務員を目指したわけではありません。学部と同級生も公務員志望は少なかったですし、私も3年生の頃は公務員試験対策だけでなく、民間企業の就職活動も進めていました。

——在学中に皆さんが自分の進路を考える上での悩みや難題、進路決定に至るプロセスについて教えてください。

山田 まず東京で働きたいという希望があり、収入にもこだわりたいと思っていました。でも、どういう仕事を選ぶかはかなり迷い、悩みましたね。ス



環境情報学部4年

生出ひより君

大学院メディアデザイン研究科(KMD)に進学。ミュージカルや舞台の世界に憧れ、将来はニューヨークなどへの留学も考慮中。

ペシヤリストか、ゼネラリストの道か。サラリーマンか、個人事業主か……: 在学中は学部の勉強だけでなく、テニスサークルの仲間との交流、さらにベンチャー系の企業でインターンシップなどさまざまな経験をしました。進路決定にはインターンでの経験が大きな決め手となりました。多くの素晴らしいビジネスパーソンと出会い、お話を伺ううちに自分がやりたいことのカタチが次第に見えてきたように思います。最終的にM&Aなどを手がけるコンサルティンングファームを志望しようと思ったのは2年生の終わり頃で、そこから本格的に就職活動をスタートさせました。

生 出 理工学部出身者でコンサルティンングファームに就職する人は珍しいで

すよね。

山田 そうかもしれませんが、今は技術がわかる理工系人材も文系と同等に求められているとも感じました。生出さんはなぜ大学院進学を決めたのですか。

生 出 もともと就職するつもりで、メディア系、エンターテインメント系企業を中心に就職活動を進めていました。それが大学院に進学することになったのは、父から「留学か進学をしてみれば」と勧められたからです。父は若い頃に勉学で苦労した経験があり、子どもたちには思う存分に学んでもらいたいと思っていました。ただその時点で自分の英語力に自信がなかったこともあり、留学に対して尻込みする気持ちがありました。またSFCで広がった視野をさらに広げるために「大学院」「日吉キャンパス」という新しい環境に身を置きたいと思ったのです。進学が決まってからはいってエントーテインメントの本場である欧米への留学が視野に入るようになりました。今はあらためて英語の勉強を始めているところです。

池田 私は2年生からオンデマンドで

公務員試験予備校の勉強をしていましたが、思ったより予備試験の成績が良くなって少々諦めかけたこともありました。一方で民間企業のインターンシップや説明会などに参加しても、その会社で仕事を自分のイメージでできませんでした。そこでいろいろ考えて、

やはり私は「困っている人たちに目を配って、より豊かな暮らしやすい公平な社会をつくっていくために公共の仕事がしたい」のだとあらためて気付いたのです。すでに3年生の秋頃で少し出遅れたタイミングではありましたが、そこから公務員に絞り込んで就職活動を始めました。国家公務員や裁判所事務員なども考えましたが、人々の生活に密着した多様な仕事ができる「東京都」を第一志望に選び、念願かなって採用していただくことができました。春からは教育文化に関わる部署に配属される予定です。

生出 教育文化の部署なんですね。私は舞台芸術やエンターテインメントの世界を目指しているので、いつかお仕事で関わることもあるかもしれませんね。

池田 その際はぜひ一緒に一緒にしたいです。

——今春からそれぞれの道を歩む皆さんから新学期を迎える塾生の皆さんに向けて進路のアドバイスやメッセージをお願いします。

山田 就職活動で試行錯誤していて痛感したのは「正解」などどこにもないということ。これは、深く考えなくてもいいということでは決してなく、だからこそ本気で自分の将来を見据え、心から納得するまで考えて、頑張ってみることが必要だと思うのです。研究論文やテスト対策も大変ですが就職活動にも専念するためにアルバイトをやって、親に借金しながら全力で勉強と就職活動に取り組みました。確かにキツかったですが、大学テニスサークルの活動には顔を出して、息抜きをしていました。塾生の皆さんは就職活動で迷いを感じたら、自分には本来に向き合う「覚悟」があるのかをあらためて自分に問いかけてみてください。

生出 大学入学以来、私の最大のテーマは「視野を広げる」こと。だから入学後はあえてミュージカルや舞台以外の学びや経験をするように心がけていました。それは進路を考える際も同じです。固定観念にとらわれず、たとえ

遠回りになるとしても、新しい経験をポジティブに受け止め、さまざまな人との出会いを大切にしながら未来により大きな可能性を求めていきたいと思っています。おそらく入学時から就職活動は始まっていると思います。学生中にどれだけ視野を広げられるかさまざまなことにアンテナを張りながらチャレンジしてみてください。

池田 お二人と違って私は「やりたいこと」「好きなこと」が見つからないまま就職活動に入りました。たくさん悩みながらとにかく公務員試験対策と並行して気になった民間企業にもアプローチしました。その中でやりたいことが実現できる仕事は公務員であり、東京都での仕事でした。今、振り返ると悩んだ時間は、将来を考えるために必要な時間でした。私のように「やりたいこと」が最初から見つからないことだってあると思います。あまりネガティブにならずに、自分の判断基準を信じて学生生活を過ごし、就職活動にも取り組んでください。

——本日はありがとうございました。
4月からの皆さんのご活躍を期待しています。

社会で役立つ三つの能力

学生総合センター 就職部長 佐藤 和

就活生と日々接していると、「大企業に入れば安心」という考えから抜け切れていない学生の多さを痛感する。昭和の時代に就職活動をした保護者に影響されてか「親が喜ぶ大企業に入りたい」とあるとか、目先の心配から「初任給の高い会社に入りたい」といった学生も少なくない。また就職活動をまるで受験やゲームのように捉え、就職情報会社やネットの情報に急かされるままに、選考が早く進んだところから進路を決めてしまう学生もいる。日本には約四千社の上場企業が存在するが、「就職人気ランキング」の上位数十社しか見ていないのである。

入学や入社はゴールではない。年功序列が崩れ、能力評価が浸透する中、常に自分が持つ能力と向き合っていかなければならない。そこで必要となるのが、社会で役立つ三つの能力である。

一つ目は、大学受験で培ってきたような「勉強力」である。幅広い教養を身に付けることは、あふれる偽情報に惑わされないためにも必須である。この「勉強力なら負けない」と思う人は、ぜひ公務員や司法試験、公認会計士といった資格試験の勉強に挑戦してみたい。また語学の勉強では、留学生や帰国子女と戦う、あるいは海外へ進学できるように力が求められる。言語能力を伸ばすためには

半年以上の留学が必要であろう。さらにこれらの時代、アジアの言語を含めた第二、第三の言語も重要である。

二つ目は、大学の専門課程における研究室やゼミの活動で培うような「研究力」である。「勉強」とは誰かが整理した知識を身に付けることであるが、「研究」とはその誰かになることであり、専門分野で人工知能のつく嘘が分かるようになることである。「ひょっとしたら私はこれに秀でているかもしれない」と思う人は、推薦入試などを活用して、まずは修士課程で本格的な研究に挑戦し、さらには博士課程、そして研究者への道も検討してみてもいい。

そして三つ目が、組織の中で働くために必要な「人間力」である。俗にいう「コミュ力」も含まれるが、自己主張だけではなく、深い人間関係を構築できる能力が大切である。人の話を聞いたり、異なった考えを持った人の立場を尊重し、怒らずに議論を続けたりすることができる能力である。いつでも辞められるアルバイトではなく、体育会や伝統的なサークル、ボランティア活動などで得られる、少し面倒くさい人間関係を維持・発展させる能力なのである。

皆さんはどの能力に秀でていて、学生生活の間に、また就職・進路先で、どれを伸ばすことができるのだろうか。ぜひ考えてみてほしい。

こんな時は就職・進路支援担当にご相談ください

- ・就活の進め方に迷った時
- ・業界・企業の選択に迷った時
- ・自分の強みがわからない時
- ・なかなか内定にたどり着かない時
- ・重複内定で内定辞退を考えたい時
- ・就活ハラスメントに遭遇しそうな時
- ・留学を視野に就活を進めたい時
- ・卒業前年度になると
- ・前半学期…マンツーマンの就職・進路相談（事前予約制）
- ・後半学期…OB・OG訪問のための塾員検索システム
- などが利用できるようになります

各キャンパスの担当窓口はこちら

三田：南校舎地下1階 学生部「就職・進路支援担当」
矢上：25棟1階 学生課学生生活「キャリア支援」
SFC(総環)：A館1階 学生支援グループ「CDPオフィス」
SFC(看護)：看護医療学部校舎1階「看護医療学部事務室」
芝共立：芝共立1号館 学生課3番窓口「就職・進路」

その他、大学主催の就職イベント、求人票など就活関連の情報提供は、塾生サイトから確認できます。ぜひ定期的にチェックしてください。

塾生サイト>就職・進路(低学年対象のイベントもあります)

<https://www.students.keio.ac.jp/com/career/service/guidance.html>

イベント開催時には、K-Support ニュースでお知らせします

<https://keio.jp> (要 keio.jp 認証)

